

地震に備えよう！

令和6年 能登半島 地震

1月1日(月)祝午後
4時10分ごろ、石川
県の能登地方を震源
とする地震が発生し
ました。地震の規模

を示すマグニチュードは7.6で、石川県志賀町では、最大震度7の激しい揺れを観測しました。阪神・淡路大震災や熊本地震のマグニチュードは7.3であり、マグニチュードが1違えば、地震のエネルギーは約33倍となることから、過去にあった2つの地震より大きな規模であったことが分かります。また、強い揺れの地震は複数回発生しており、1月6日④までに、震度5強以上の揺れが9回観測されています。

さらに、地震に伴う津波により、石川県珠洲市、能登町、志賀町の3市町で合計約190ヘクタール(東京ドーム約40個分に相当)が浸水し、特に浸水域が広がった珠洲市南部の宝立町地域は、浸水深が約4メートルに達したとみられています。被害の全容が明らかになるには、まだまだ時間を要しますが、家屋の倒壊や津波、火災など、地震の発生が直接

原因となつて亡くなった方は、熊本地震が50人であったのに対し、能登半島地震では、すでに200人を超えており、災害関連死を含めれば、さらに増えていくことが予想されます。

愛知県内では、西尾市で震度4を観測し、テレビや携帯電話から緊急地震速報が鳴り響きましたが、幸いなことに、幸田町では震度3が観測されたのみで、地震による被害の報告はありませんでした。



出典：気象庁資料

内灘町の 被害状況

令和4年2月3日
に災害時相互応援協
定を締結した石川県
河北郡内灘町では、

今回の能登半島地震で最大震度5弱の揺れが観測されました。能登半島と比べれば、地震の揺れは大きなものではなく、役場庁舎のある中心部には、ほとんど被害がありませんでした。しかし、干拓によって造成された、河北潟干拓地の近くにある宮坂地区・西荒屋地区・室地区では、大規模な液状化により、道路や上下水道、住宅など、多くの被害が発生し、復旧・復興の目的が立っていません。



幸田町職員撮影：傾いた道路看板



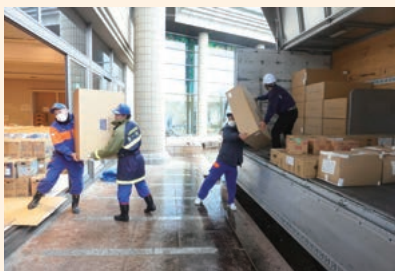
幸田町職員撮影：液状化で傾いた家と砂に埋まった車



幸田町職員撮影：道路被害



町長に出発の報告をする副町長



内灘町の消防団と協力して荷下ろし

被災地への支援

内灘町からの災害時相互応援協定に基づき、被災地の現状や支援ニーズの確認、支援物資を搬送するため、副町長を中心とした先遣隊が1月6日①に出発しました。

支援物資として、町内企業のエアウィーヴ株式会社からは就寝用のマットレスを、三菱ケミカル・クリンスイ株式会社からは500mlのペットボトル飲料水をご提供いただきました。

内灘町の川口町長へ支援物資をお渡しし、被害状況などを確認したところ、液状化によって、下水道の復旧や、り災証明を発行するための調査に係る人員、携帯トイレなどの生活に必要な物資が不足している旨をお聞きしました。

また、1月29日②に、町で開催したイベントや、各種団体・町内の各小中学校などから集まった義援金（210万3000円）を、町長から内灘町の川口町長へお渡ししました。引き続き、町としても、被災地の早期復興に協力すべく、必要な支援を行ってまいります。

■内灘町への支援物資一覧（1月15日時点）

支援回数	日にち	物資	数量
1	1月6日	500mlペットボトル飲料水（三菱ケミカル・クリンスイ提供）	960本
		マットレス（エアウィーヴ提供）	30枚
		携帯トイレ	4,500個
		ブルーシート	150枚
		大人用おむつ	6箱（108枚）
2	1月9日	粉ミルク	324回分
		携帯トイレ	6,900個
3	1月10日	携帯トイレ（西尾市提供）	3,000個
		携帯トイレ（蒲郡市提供）	1,000個
4	1月15日	500mlペットボトルお茶（JAあいち三河提供）	240本
		箱ティッシュ	600個
		ウェットティッシュ	600本
		ペーパータオル	450個
		割りばし	4万膳
		速乾性手指消毒剤（1Lポンプ式）	10本
エタプロコールG（5L）	9本		



左：内灘町川口町長

■復旧・復興業務派遣職員一覧

日にち	派遣先	派遣業務	派遣人数
1/15～1/16	内灘町	下水道施設調査	2
1/15～1/22	内灘町	被災家屋の被害認定調査	2
1/22～1/29	内灘町	被災家屋の被害認定調査	2
1/28～2/4	志賀町	被災家屋の被害認定調査	1
1/29～2/5	内灘町	被災家屋の被害認定調査	2
2/11～2/18	志賀町	被災家屋の被害認定調査	1

地震への備え

今回、能登半島で発生した地震は、いわゆる内陸型地震（直下型地震）と呼ばれ、地表近くの活断層によるものです。震源が近く、突然大きな揺れに襲われることが特徴で、い

どこで発生してもおかしくない地震です。一方で、この地域で発生が危惧されている南海トラフ地震は、海溝型地震と呼ばれ、海の中にあるプレートに起因するものです。初めはカタカタとした小さな揺れを感じ、その後、横に大きく揺さぶられるような揺れが来ます。揺れている時間が長く、東日本大震災のときのように、数分間続くこともあります。主に海の中で発生するため、沿岸部の地域が大きく揺れ、巨大な津波が発生する可能性が高くなることも特徴です。

このように、地震の種類によって揺れ方や規模などに違いはありますが、共通することとして、地震の揺れによって、住宅の倒壊や家具が転倒する危険性が高まるということです。阪神・淡路大震災で亡くなった方のほとんどが、住宅の倒壊や家具の転倒による圧迫死でした。非常食や携帯トイレを備蓄することは、もちろん大切ですが、自らの命を守るために、住宅の耐震化や家具固定を最優先に行いましょう。町では、昭和56年5月31日以前（旧耐震基準）に着工された木造住宅について、無料で耐震診断を行っており、耐震補強工事が必要となった場合の補助も行っています。

必要な備蓄品や対策はそれぞれの家庭で違いますので、この機会に防災対策について家族で話し合ってみましょう。

問合せ 防災安全課 安全テラスグループ
 ☎（0564）62・1111（内線373）
 FAX（0564）63・5139

